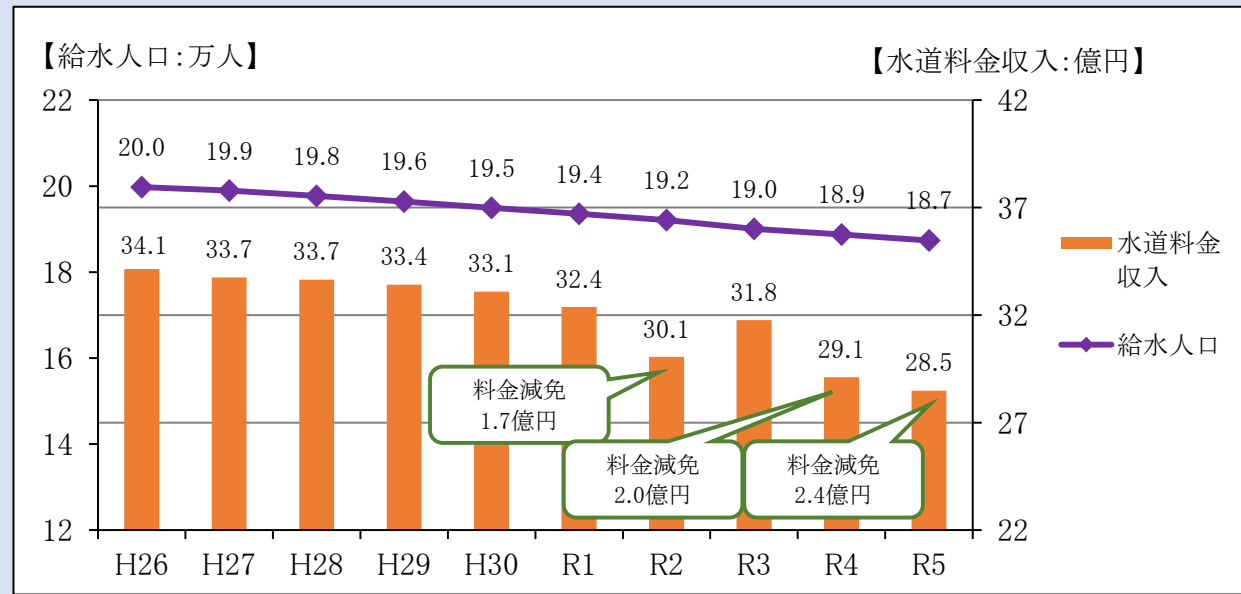


令和5年度 上水道事業 決算の概要

①水道料金収入



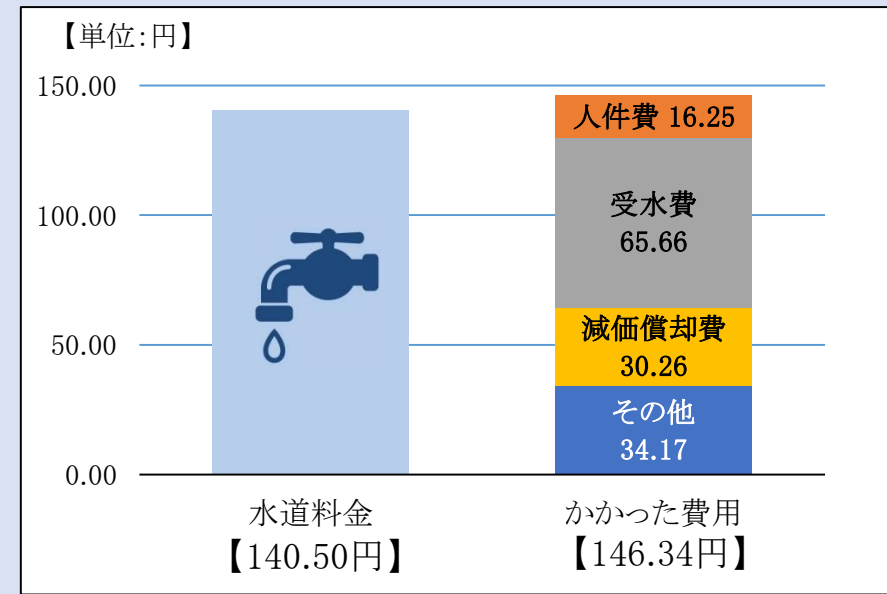
【決算の状況】

水道料金収入は約28億5千万円で、前年度に比べ約6千万円減少しました。これは、当年度に実施した物価高騰に伴う経済対策として料金の減免額が前年度よりも増加したこと、給水人口の減少によるものです。減免額の増加が約4千万円であることから、給水人口の減少による減少額は約2千万円となります。

【今後の見通し】

令和6年4月に実施する料金改定により、水道料金収入は一時的に増えますが、長期的な人口の減少は続く見通しであるため、その後の水道料金収入の減少は続く見込まれます。

③水道料金と水を供給するためにかかった費用の比較(1㎡当たり)



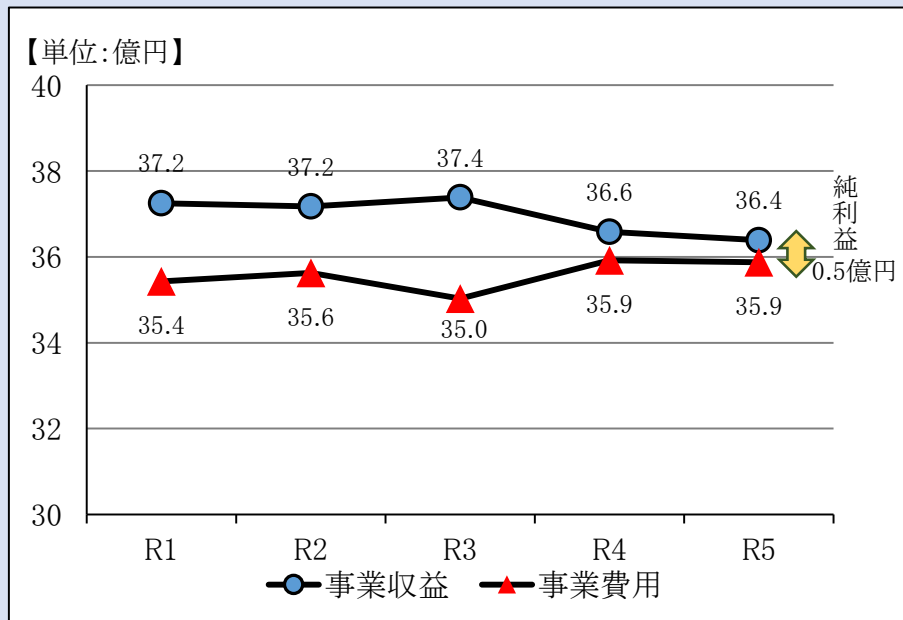
【決算の状況】

水道料金は減免をより多く行ったため、前年度に比べ1.75円減少しました。費用は、全体的には前年度からほぼ横ばいでしたが、費用から控除する減免に伴う一般会計繰入金が増加したため、前年度に比べ1.07円減少しました。「水道料金」<「水を供給するためにかかった費用」となっており、費用を料金で賄えていない状況です。

【今後の見通し】

料金改定により「水道料金」>「水を供給するためにかかった費用」となる見込みです。また、老朽施設の更新や耐震化を進めるため投資費用が増加傾向にあり、今後、減価償却費が徐々に増加する見込みです。

②損益の状況



事業収益:

お客さまからいただく水道料金など通常の業務活動に伴う収入。

事業費用:

施設の維持管理にかかる費用など通常の業務活動に伴う費用。

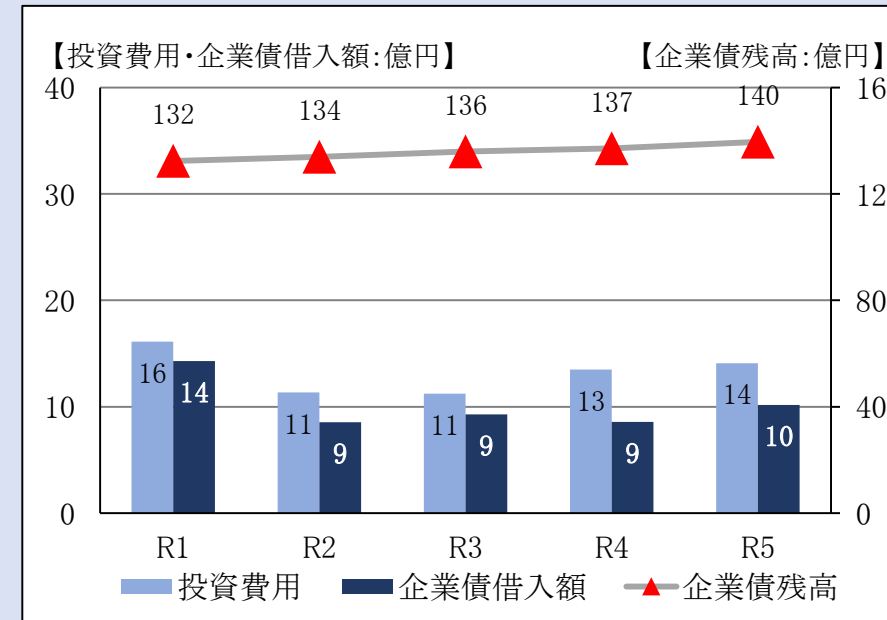
【決算の状況】

減免による料金収入の減少は、一般会計繰入金で補てんされましたが、料金収入の減少等により、事業収益全体で約2千万円の減少となりました。一方、事業費用は除却費のほか、インボイスや料金改定対応のための料金システム改修に係る委託料が増加したものの、受水費、職員退職に係る費用が減少したこと等から、横ばいとなりました。この結果、事業収益から事業費用を差し引いた純利益は前年度比2千万円減の約5千万円となりました。

【今後の見通し】

料金改定により水道料金収入は増加し、純利益が増加する見込みです。ただし、老朽施設の更新や耐震化を進めることにより、減価償却費が増加していく一方で、人口減少により料金収入が減少していくことが見込まれるため、純利益は減少していくと予想されます。

④投資費用と企業債残高



投資費用:

管路や浄水場、配水場などの施設を整備したり、改築更新するための費用。

企業債:

投資費用の財源に充てるため、国や金融機関などから借り入れる借金。借り入れた後、30年かけて少しずつ返済することにより、負担を平準化しています。

【決算の状況】

投資費用は約14億円でした。投資費用の財源としては、一部で補助金や一般会計繰入金を活用していますが、残りの大部分を企業債により賄っているため、企業債残高が年々増加しています。

【今後の見通し】

今後10年間の投資計画では、約27.0億円／年の投資費用が必要となる試算となっています。投資費用の財源として補助金や一般会計繰入金の確保に最大限努めますが、今後も企業債残高は増加すると予想され、令和15年度には200億円を上回る見込みです。